独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成事業 「不登校やひきこもりの初期介入支援と自立支援サポート事業」

不登校からひきこもりへ、そして二次障害としての精神疾患へと進行してしまうケースを未然に防ぐためには、できるだけ早い段階での支援が何より重要です。しかし現在の公的な相談窓口には限界があり、多くの家族が孤立し、不安や絶望の中で支援を求め続けています。

国のひきこもり対策は、「すでに一步を踏み出した人」への支援に偏っており自宅から出られずにいる当事者への支援が十分に届いていないのが現状です。その結果、家族は有効な支援策を見出せず、問題を抱え込んだまま、ますます深刻な状況に追い込まれてしまいます。

法人として、精神障害のある方々に対する地域支援や啓発活動に取り組んできました。今後、不登校やひきこもり当事者が地域の中で自立した生活を送れるようになるためには、訪問看護ステーションなどによる訪問型で伴走支援に特化した専門職や専門機関による、顔の見える継続的な支援が不可欠です。

特に、制度のはざままで支援からこぼれ落ちてしまう人々に対しては、公的機関だけではなく、民間による柔軟で継続的なサポートが求められます。そのためには、無償やボランティアではなく、きちんと報酬が担保された仕組みづくりが必要です。持続可能な支援体制の整備こそが、当事者とその家族の安心につながるのです。

法人としては「道がないなら作ればいい」という理念のもと、当事者や家族の声に耳を傾け、地域社会とのつながりを創出する支援体制を構築していきたいと考えています。

今回、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の助成事業に応募したら内定を受けることになり、「不登校やひきこもりの初期介入支援と自立支援サポート事業」ということで、今年度の事業として実施できることになりました。

・応募の理由

不登校からひきこもり、さらに二次障害としての精神疾患に罹患する道を早期に改善するには、初期段階での支援が鍵となります。しかし、現状では公的相談窓口に限界があり、多くの家族が孤立や絶望を感じています。

国のひきこもり対策は、一步踏み出した人への支援に偏重しており、家にこもっている人には十分な支援が行き届いていません。これにより、家族は有効な支援を得られず、不安を抱えたまま問題に直面しています。

これまで法人として、精神障害者の地域支援や啓発活動に取り組んできましたが、ひきこもり当事者が自立生活を実現するためには、訪問看護ステーションなど訪問型伴走支援に特化した専門機関や専門職による地域密着型の支援が必要です。

特に制度の狭間にいる当事者や家族に対しては、民間事業所による継続的な支援が求められます。そのためには、支援における報酬が不可欠ですが、現在、制度上報酬が保証されていない狭間の領域であるが故に民間事業者が介入しない状況に独自の報酬を提供して、支援されていない家族に直接訪問型伴走支援をモデル事業として提供することで課題解決につながると考えます。

・団体として取り組む理由

精神障害者の地域支援において、訪問看護ステーションの役割は非常に重要です。これまで真摯に連携を推進する中で、不登校やひきこもりの方々への訪問型伴走支援が効果を上げていることが実証されてきました。この支援には子供医療費助成制度を活用することで、医療的なアプローチを含めた包括的な支援が可能となります。

しかし、訪問支援を実施するためには医療機関とつながることが必須であり、その前段階として家族や当事者の同意を得るための訪問支援活動が不可欠です。この活動に対して現行制度では報酬保障がなく、そのため民間事業者が支援を避ける傾向にあります。このような課題に果敢に挑み、支援の手が届きにくい絶望の中にいる家族に希望を届けることは、私たち NPO 法人の使命です。

制度の狭間で未解決の社会課題に正面から向き合うことで、当事者や家族がより良い未来を築くための道筋をともに歩んでいくことを目指しています。

・取り組み地域

宮崎市全域。具体的には、中心地域を中心に、周辺地域の旧清武町や旧田野町旧佐土原町、旧高岡町、国富町など。訪問看護ステーションを中心に地域包括支援センターや相談支援事業所など訪問関係機関との連携を活用し、不登校やひきこもり状態の子どもや家族への早期介入支援の充実に向けて訪問相談や情報共有の仕組みづくりに取り組む予定です。